



慶應義塾大学ビジネス・スクール

イーロン・マスク(Ⅱ)

5

—スペース X やテスラが「人類を救う!」—

『感情を逆なでしてしまった方々に、一言申し上げたい。

私は電気自動車を一新した。

10

宇宙船で人を火星に送ろうとしている。

そんなことをする人間がごく普通であるなどと、本気で思われているのですか、と』^[1]

減収減益決算発表

15

テスラは2024年4月末、2024年度1～3月期の決算を発表した。

四半期売上高は213億100万ドル、営業利益11億7,100万ドルで、それぞれ前年同期比9%減、56%減となった。営業減益は5四半期連続だった。2023年の年度決算では、売上高は前年比19%増の967億7,300万ドルだったが、営業利益は同35%減の88億9,100万ドルとなっていた。



イーロン・マスク CEO(2024年1月)
(X.com マスク氏アカウント/Tesla HP より)

20

一方で、対照的にゼネラル・モーターズ(GM)の決算は好調だった。米国では電気自動車(EV)が減速し、ガソリン車の大型ピックアップトラックやハイブリッド車(HV)が好調である。ドイツでは中央政府の補助金終了に伴いEVが減速し、また世界最大の販売台数市場である中国ではEV過剰生産

25

^[1] [文献Ⅷ] プロローグ

このケースは山根節(慶應義塾大学名誉教授/ビジネス・ブレイクスルー大学院教授)と牟田陽子(早稲田大学ビジネススクール MBA)が、慶應義塾大学ビジネススクール(KBS)小林喜一郎名誉教授の協力を得て、クラス討議の資料として作成した。

30

本ケースはKBSが出版するものであり、ケース注文や複製等についての問い合わせはKBSへ(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。KBSの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法による伝送も、これを禁ずる。

Copyright © 山根 節、牟田陽子(2024年6月作成)